

# 持続可能な未来をつくる SDGs・ESD教育の実践



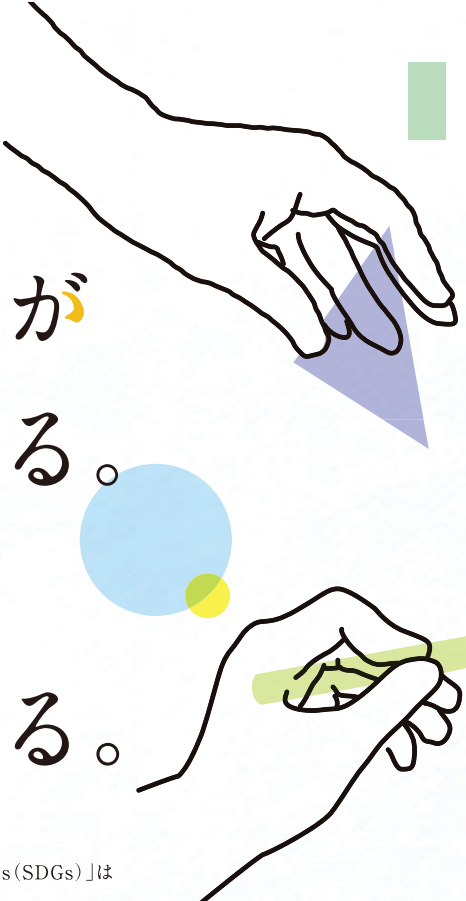
セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校  
SAINT JOSEPH JOSHI GAKUEN HIGH SCHOOL & JUNIOR HIGH SCHOOL

「愛と奉仕の精神」に基づいた  
生徒主体のボランティア活動が未来を切り開く

東洋経済  
A C A D E M I C

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT GOALS

We support the Sustainable Development Goals (SDGs)



# 子どもたちが 世界を変える。 教育が 未来をつくる。

2015年9月、国連サミットで採択された

「持続可能な開発目標=Sustainable Development Goals (SDGs)」は  
2030年の目標達成に向け、「行動の10年」に進んでいる。

小さな行動変容が緩やかにうねりを起こし、大きなインパクトとなって広がる現代。  
地球の未来を担う次代のアクションは世界を動かすエネルギーへとつながっていく。

そこで、重要なファクターとなるのは教育だ。

子どもたちがSDGsの本質を理解し、持続可能な未来を築いていくために。

「持続可能な開発のための教育=

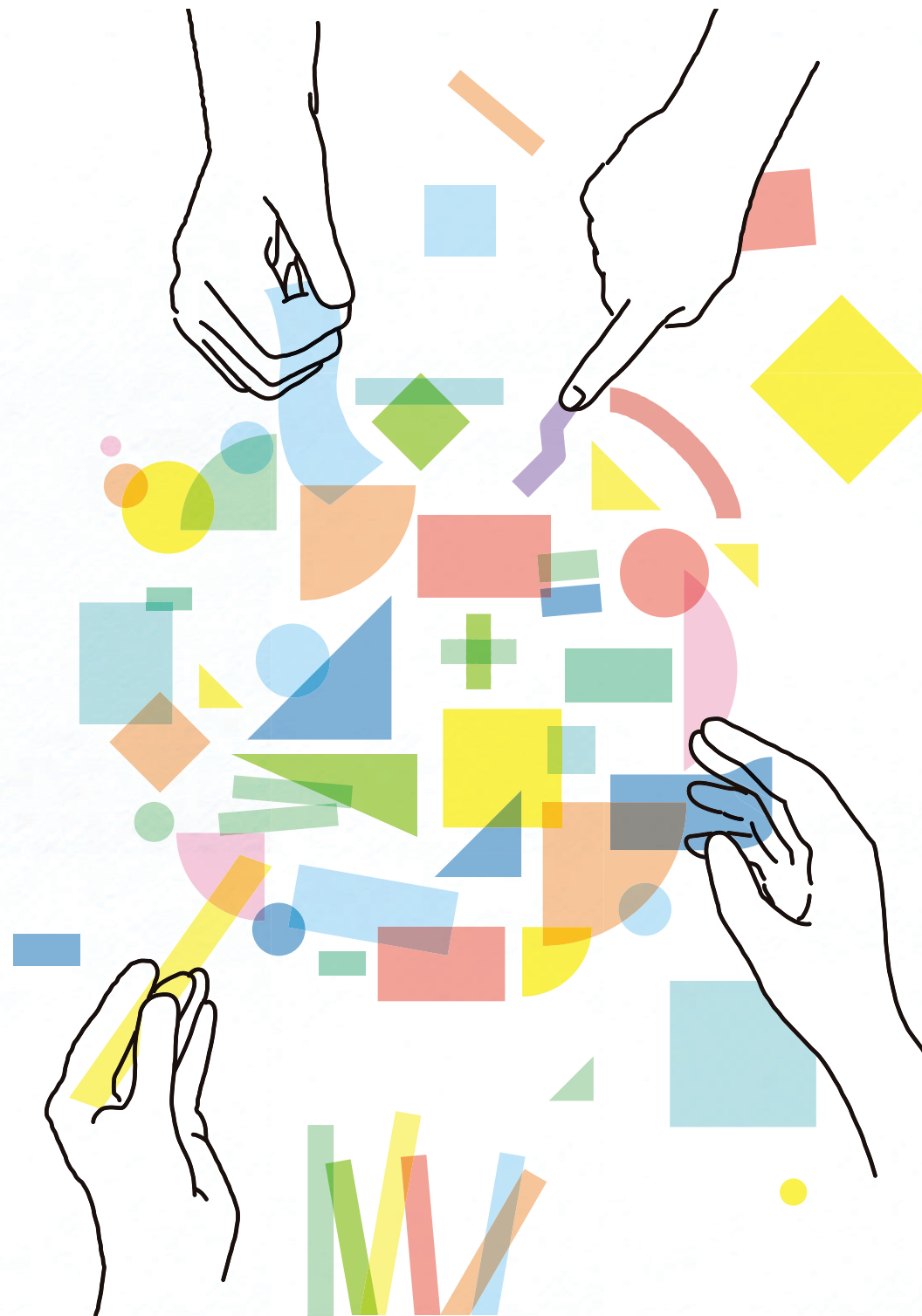
Education for Sustainable Development (ESD)」に取り組み、

さらなる広がりを見せる初等・中等教育の真価に迫る。



## SDGs行動の10年

2020年1月、アントニオ・グテーレス国連事務総長の呼びかけで「行動の10年」がスタート。  
2030年までの10年間で真に持続可能な社会を実現すべく、国際／国、地域、企業／  
個人の3つのレベルにおけるアクションの加速化と対話による連携が求められている。





# セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校

SAINT JOSEPH JOSHI GAKUEN HIGH SCHOOL & JUNIOR HIGH SCHOOL

## 「愛と奉仕の精神」に基づいた 生徒主体のボランティア活動が未来を切り開く



6年間を通して経験する  
多彩な奉仕活動

— 建学の精神 —

愛と奉仕の精神

— スクールモットー —

世の光・地の塩

建学の精神に「愛と奉仕の精神」を掲げ、キリストの中心的教えとキリストが示した模範に基づく独自の教育を展開しているセントヨゼフ女子学園高等学校・中学校（以下、セントヨゼフ）。三重県津市を舞台に、1959年に高校、1961年に中学校を開校し、中高一貫のカトリックスクールとしての歴史を刻んできた。2015年1月からユネスコスクールに加盟しており、持続可能な開発のための教育「ESD (Education for Sustainable Development)」を推進。そして、「SDGsの実践を通して、持続可能な社会づくりの担い手となる女性の育成に努めている。

教育の特色の1つとして挙げられるのが、生徒たちが6年間



「ウォーカーソン」での行進風景

を通して経験する多彩な奉仕活動だ。中学1年生でボランティアの基本を学び、2年生以降はより広い視野を持ち、段階的にさまざまなプログラムに参加。体験から学ぶことを大切にしながら、社会との関わりを尊重できる女性へと成長していく。

毎年の夏休みには、「誰も置き去りにしない」をテーマに、炊き出しやフードバンク見学、ことも食堂・児童養護施設での支援活動も行われている。ボランティアを組み込んだ教育プログラムをはじめ、セントヨゼフはSDGsの概念が提唱される前から、それに資する社会貢献活動に幅広く取り組んできた。

近年は、キャリア教育の中でSDGsの視点を取り入れたり、校外学習でJICA（国際協力機構）を訪れたり、さらなる広がりを見せている。また、自然豊かな環境を生か



井関 智子  
校長

し、教員と生徒が一緒になり、学校近隣にある池の水質調査に励む課外活動なども実施されている。校長の井関智子氏はこう話す。

「本校では、身近なトピックから国際的なテーマまで、『愛と奉仕の精神』を体現するさまざまな活動に挑戦できる環境を用意しています。生徒たちに伝えたいのは、他者に喜んでもらうことが、自分の喜びになるということ。そして、国内外に助けや支援を求めている人々がたくさんいる事実を、目を向けてほしいと考えています」

35年以上にもわたって  
受け継がれる募金活動  
「ウォーカーソン」による支援

1986年に始まったセントヨゼフの伝統的なボランティア活動が「ウォーカーソン」だ。教育や医療の援助を必要としている国・地域を支援するために、生徒たちが津市内の決められた約10ヶ所のコースを歩く。参加者は事前に自分たちでスポンサーを探し、ウォーキング終了後に約束の金額を受け取って募

金する。寄付先は年度によって変わるが、インドやチエルクイリ、シエラレオネ、東日本（釜石）といった継続的に支援してきた地域に加え、近年はフィリピンの学校や国境なき医師団など、支援先も広がっている。

新型コロナウイルス感染症が発生する前は、フィリピンに対する支援において、有志の生徒が集められた募金を現地へ手渡ししていた。セントヨゼフではグローバル教育の一環で海外研修の機会を設けており、その1つである「フィリピン研修」の中で、貧困地域の学校に募金を届けたのだ。生徒たちはマニラ市スラム地区にあるセントハンニバル校を訪問。現地の子どもたちと交流を重ねながら、親交を深めたという。こうした海外研修はコロナ禍の影響で中止になっていたものも多いが、状況が落ち着き次第、再開される見込みだ。

「本校はアメリカの3大学・6高校と姉妹校提携を結んでおり、フィリピンとニュージーランドにも姉妹校があります。今後はこうしたネットワークをよりいっそう活用し、双方の生

徒同士で、お互いの国が抱えている問題や共通するSDGsの目標について討論・発表するプログラムも実現できないか模索しています」（井関校長）

また、ウォーカーソン自体もコロナ禍においては密になる状況をつくってしまうため、代替企画として「オンラインウォーカーソン」が開催されている。10月をウォーカーソン月間と位置づけ、生徒が期間中に約10ヶ所を歩くミッションを達成することで、スポンサーから寄付を募る仕組みを構築したのだ。35年以上にわたって続くウォーカーソンの歴史は、コロナ禍を乗り越え、これからも途切れることなく受け継がれていくだろう。



School Information

セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校 SAINT JOSEPH JOSHI GAKUEN HIGH SCHOOL & JUNIOR HIGH SCHOOL  
〒514-0823 三重県津市半田1330 URL: https://sjjg.ac.jp/

# JOSEPH FESTIVAL 2021

ヨゼフ祭「Little World In Joseph」

「セントヨゼフで体験する世界」をテーマに、各クラスが趣向を凝らした出し物を展開。生徒たちは文化祭形式で校内を巡りながら、世界の国・地域が抱えている諸問題やSDGsが目指す目標について見識を広めた。



南米に行った気分を味わってもらうため、南米の世界遺産や有名な風景を描いて現地を表現。SDG11を意識した。



カジノを模した出し物では、SDGsのゴールに合わせて17までのトランプを用意。数字(目標)に応じたクイズが出題された。



SDGsの17ゴールを示したカードと同色の水を入れたペットボトル。輪を投げて入れると、その色のカードがプレゼントされた。

Student's Voice

## 地域貢献や環境配慮 運営面からもSDGsを意識

約2カ月という準備期間の中で、先生方と何度も議論を重ね、ヨゼフ祭をつくり上げました。単に出し物を用意するだけでは面白みに欠けるため、来場者からの人気や内容に応じてポイントを付与し、その結果で「優秀賞」を決めるシステムに。SDGsに関わる取り組みを積極的に進めたクラスには「SDGsポイント」が入るなど、皆が主体的にSDGsと向き合えるように工夫しました。優秀賞の賞品として約1年



ヨゼフ祭実行委員会  
向かって左から中山椋良さん(高2)、奥本幸音さん(高2)、鈴木彩乃さん(高1)、富井心愛さん(高1)

間・月1回贈呈する花は、地元の生花店で購入。これはコロナ禍で苦境に立つ地域経済を、少しでも活性化したいという思いから行った試みです。当日は各クラスが多彩な出し物を展開。そのクオリティーの高さに私たちも感動し、目を見張りました。それらはすべて実行委員会が動画で撮影し、来場できない保護者の方に向けて配信しました。また、ヨゼフ祭では運営面からもSDGsを意識し、会議で使う資料作りからお金の管理、優秀賞の投票までiPadで実施。ペーパーレスを実現し、エコロジカルな行事になった手応えを感じています。今回の経験を通し、SDGsについてもっと勉強し、「行動」につなげていこうという気持ちが高まりました。日頃から私たちにできることを考え、実践していきます。

## 中高6学年が一丸となり、初めて開催した「ヨゼフ祭」 学園全体で加速するSDGsに対する取り組み



世の中に貢献するためのツールとして英語教育にも力を入れる

世界的にジェンダー平等の現が見られる中、セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校は以前からジェンダー問題の解決に力を入れている。2019年に熊本で開催された「女子高校生サミット」では、全国から集まった女子高4校と共に討論発表を行った。参加にあたってセントヨゼフの生徒たちは、海外研修で経験した文化・社会の仕組みの違いから「日本社会における女性の理想的な働き方」を考察。比較対象として世界の事例を調べるため、国内外の関係者に電話・メールで聞き取り調査も重ね、最終的には未来への宣言文として

て研究成果を発表したという。また、ジェンダーのほかにも、環境問題に対する取り組みも予定。2021年に三重県で開催予定だった「第9回太平洋・島サミット(PALM9)」は、コロナ禍によりオンラインでの実施となった。これは、首脳レベルが集まり、太平洋諸国・地域が直面するさまざまな問題について意見交換を行う国際会議だ。セントヨゼフの英語部「G・C・U(Global Communication Union)」は、「みえグローバル学生大使」として、三重県がサミットにあたり開催したオンライン交流会に参加。留学生や三重県の高校生と、フィジーからトンガ、パプアニューギニア、パラオ、日本まで各国の環境問題について話し合い、解決策を発表した。G・C・Uでは、今後も気候変動によって影響を受ける太平洋諸国・地域の現状を社会に発信し、自分たちができることを考えていく。

### SDGsをテーマに組み込んだ新たな学校行事「ヨゼフ祭」

例年、セントヨゼフでは保護者や同窓生を招いてバザーを開



募金活動を行う部活「Wings of Friendship」は、ヨゼフ祭で手作りキャンドルを販売

催してきたが、昨年度はコロナ禍の影響で中止となった。そんな中、今年度には生徒たちの発案で代替行事として実現したのが「ヨゼフ祭」だ。生徒・教職員のみが参加する校内限定イベントで、ネーミングから企画・運営まで生徒主体で行われた。ヨゼフ祭ではSDGsに着目し、テーマを「Little World In Joseph」に設定。中学1年生は日本、高校2年生はアメリカなど、学年ごとに国・地域が割り当てられ、各クラスが担当エリアの実情に基づいた展示物やゲームを考案した。多様性を理解してもらおうため、1つの紙芝居を日本各地域の方言ごとに作ったり、SDGsの内容を組み込んだ劇を披露したりと、出し物のバラエティは実にさまざま。生徒たちはイベントを大いに楽しみな

から、SDGsに対する理解を深めた。また、セントヨゼフでは生徒一人ひとりにiPadが貸与されており、環境面を配慮し、ヨゼフ祭の企画・運営は基本的にペーパーレスで行われた。イベントパンフレットも電子ブック形式で制作され、実行委員会がiPadで配信するスタイルを取ったという。

「今回の催しが、SDGsを「自分事」として捉え、2030年に向けた行動を起すきっかけになってほしいと思います。来年もヨゼフ祭の開催を予定していますが、継続する中で生徒一人ひとりが知識・経験を積んで、次のステップにつなげていくことが重要です。そして、下級生が上級生の背中を見ながらその思いを受け継ぎ、取り組みを発展させていくような行事になることを期待しています。」(井関校長)

生徒が一丸となって「愛と奉仕の精神」を体現し、SDGsの実現に寄与するセントヨゼフ。このカトリックスクールから輩出される「品位と知性」を兼ね備えた女性たちが社会に何をもたらすのか。その活躍に大きな期待が集まる。